

国際バカロレア教育導入・実践の歩み  
—国内固有の課題に即して—  
Diploma Programme (DP) 編

令和7年3月

作成：文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム

※本資料は、令和6年度文部科学省委託事業「国際バカロレアに関する国内推進体制の整備事業」により作成したものです。

※本資料の内容は、執筆者である IB 教育アドバイザーの視点に基づき、執筆時点ならびに事例発生当時に得られた情報をもとに作成しています。そのため、現行の規定や運用と相違が生じている場合があります。最新情報については、必ず国際バカロレア機構の公式資料または国際バカロレア機構の職員に御確認ください。

## 国際バカロレア教育導入・実践の歩み（目次）

第1章 はじめに

第2章 認定までのプロセス

第3章 コーディネーターおよび教員の確保

第4章 費用について

第5章 カリキュラムについて

第6章 認定後に必要なこと

第7章 情報収集の仕方

## 第1章 はじめに

### 1-1. はじめに

—IB Journey を始めるみなさんへ—

2013年にInternational Baccalaureate Diploma Programme (IBDP)の理科・社会・数学の科目の一部を日本語で提供可能になって以来、日本のIBDP校は増加の一途を辿っています(文科省 IB コンソーシアムホームページ)。しかしIBDP導入には学校コミュニティ(教職員・生徒・保護者・理事会・教育委員会・地域住民など)の多くの方が関わった様々な取組が必要であり、導入を主導する先生方もIBDPを導入したくとも「分からないことが分からない」という状況に陥ることが多いと推測されます。

そこでこの「国際バカロレア教育導入・実践の歩み」では、日本の学校教育法第1条に定められた高等学校において、(1)IB校となることを検討中の「関心校」、(2)現在IB校としての認定を目指している「候補校」の、主にDPコーディネーターや管理職の先生方が、IBDP導入に向けた実践事例を参照し、様々な判断や決断の参考となる情報を提供することを目的としています。

IB校としての段階と概要

IB校としての段階	概要
関心校	IB校となることを検討中の学校
候補校	現在IB校としての認定を目指している学校
認定校	すでにIB校と認定されている学校

[The Authorization Process.](#) (2023, July 4). IBO. を基に筆者作成

### 1-2. 各学校の「文脈」に合わせたIBの導入

International Baccalaureate Organization (IBO)は、IBのプログラムの導入の際には学校の「文脈」を尊重することの重要性を強調しています。では、学校の「文脈」とは何でしょうか。例えば、学校がIBDPを導入したい理由、学校の地域との関わり、私立か公立か、生徒や保護者のニーズは何か、先生方がIBをどう捉えているか、学校がどのような教育理念を持っているか、それはどの程度実現されているか、学校や先生方がこれまで行ってきた教育にはどのような特徴や価値や限界があるか、課外活動や部活動の実施状況、進路の希望の傾向や方向性、IBDPを通して学校が実現したいこと、などが例として挙げられます。皆さんの学校の「文脈」はどのようなもののでしょうか。是非数名の先生方での「対話」を通してご自身の学校の「文脈」を考えることにより、これまでの教育や取組の振り返りを行ってみてください。

例えば、あるIB校は、部活は18時終了で、運動部でも全国大会に出場しつつ難関大学も目指すという文化がありました。しかしIB生は大変だろうと部活禁止としようとしたと

ころ、IB の確認訪問の際、文武両道という学校文化を大事にして欲しいと IB の訪問官から助言され、IB 生も部活可能としました。そして現在では IB 生もいくつかの種目で全国大会に出場し、IB 生の生徒会長も 3 名生まれるなど、これまでの学校の「文脈」を活かした形で IB を導入・活用しています。

この「学校の文脈」は各学校により異なります。これが、世界に多くの IB 校がありますが、「同じ IB 校は一つも存在しない」と言われる所以です。そしてここに実践の参照の限界があります。つまり、この「国際バカロレア教育導入・実践の歩み」では実践を紹介しますが、それらは学校の文脈により異なるものであり、あくまでも参考として参照していただく必要があるということです。もちろん IB が最低基準のルールとして定めていることはありますが、ある学校の実践が「正解」という訳では全くなく、各学校の文脈に合わせて実践をカスタマイズしていく必要があります。

このように IBDP の導入にあたっては、全ての学校に当てはまる「正解」はないという前提で、各学校でのこれまでの取組を振り返った上で、学校の文脈は何かを考え、IB の導入をいかにご自身の学校の教育のバージョンアップに活かせるかという視点で校内の先生方で協働していくことが重要です。何か正しい 1 つの「正解」があってそれを教えてもらってそこにたどり着く必要があるという、「正解探しマインド」からの脱却が、生徒だけでなく教員にも必要となります。

### 1-3. 生涯にわたって学び続ける学習者の育成～自己決断力を育む

IB の理念にも掲げられているように、生徒たちは IB での学びを通して多様な視点を持ち、生涯にわたり学び続ける土台を身につけていくことが求められています。IB での学びは「対話や言語や関係性が現実や世界を作り上げる」という考え方に基づいた「社会構成主義」を土台としており、他の生徒たちとの対話を通して共に知識を構築する姿勢を持ち、自ら考えて行動していくためにも自己決断力を育むことが重要となります。

#### IB の使命（教育理念）

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IB は、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IB のプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

国際バカロレア機構(2019)

そして自己決断力を育むには自己決断の機会が必要であり、過度に手取り足取り生徒の支援をしてしまうことは、自己決断力を育む機会を奪ってしまうことにもつながりかねません。例えば自分の学び方のスタイルを模索して、試行錯誤の上で自分なりの学び方を確

立していく過程は、生涯にわたって学び続けることのできる土台となる「学び方を学ぶ」ためには不可欠な過程であると言えます。もちろん何事もバランスが重要で、困った時に助けを求めることのできる力も重要です。先輩の勉強法を参考にすることも役に立つと思われま。しかし何かに取り組む際に他力本願的に他者に頼るのではなく、自分で覚悟を持ってなんとかしようとする自己決断力は IB の学びには不可欠です。学校も勉強面やメンタル面でのサポートはもちろんしますが、サポートに過度に頼りすぎる「サポートが必要マインド」からの脱却も、生徒・保護者には必要かもしれません。

#### 1-4. IB ディプロマ・プログラムを導入する意義

最後に学校が IB ディプロマ・プログラムを導入する意義について考えてみたいと思います。学校がこのような新しいプログラムを導入するのは大きな挑戦になると言えます。授業だけでなく進路指導も未知への挑戦となり、前例はない前提で進んでいく必要があります。前述の自己決断力の育成や「サポートが必要マインド」からの脱却は、学校にとって必要なものとなります。

「探究的な学び」を深めるために IB を導入するという決断も多いと思われまが、「探究」とは何でしょうか。辞書の定義はありますが、これも学校内の先生方でそれぞれが持つ考えを言語化していくと様々な意味を持ちうる言葉で、協働して意味の構築 (sense-making) をする価値のある概念だと思いま。疑問を持ち解決する姿勢とか、自分と向き合い自分をより深く知る過程、またこれまでに行って効果のあった各学校での取り組みとのつながりなど、いろいろ出てくると思いま。そして唯一の「正解」のようなものはありません。さらにこの過程はまさに生徒たちの IB での学び方でもあり、「探究には探究が必要」だと言いま。生徒たちと共に先生方も学び続ける姿勢を持つ必要があるという点は、IB を導入する意義の 1 つになり得ま。IB 生はよく、IB の学びを「超大変だけど超楽しい」と表現しまが、これは IB に関わる先生方にも言えることだ。

また、学校として教育の付加価値を高め、他校との競争力を向上させるために IB を導入するという判断も考えられま。IB 導入の大変さなどを「IB を導入するリスク」と捉えるのであれば、これらは裏を返せば「IB を導入しないリスク」とも言いま。実際に IB を導入すると、特に海外大学における IB の高い評価を実感する機会が増えま。また、IB を学んだ生徒が海外大学での学びを語る姿に触れると、「もし IB を導入していなければ、こうした可能性や経験は生まれなかつたらう」と感じる場面も少なくありません。つまり、「IB を導入しないリスク」とは、他校との競争力の問題にとどまらず、生徒が新たな世界を切り開く機会を失いかねない点にあると言いま。

さらに、IB で学んで国内大学に進学した生徒たちも、IB で身につけた学びの姿勢や探究の力をそれぞれの進路で活かしていま。新しい知識や経験を通して、自分たちで新しい現実や世界を創り出すことができる、その可能性に気付くことこそが、IB を導入する意義の一つと言えるかもしれま。

IB の導入には各学校が覚悟を決めて自己決断力を発揮して進めていくことも大切ですが、他の IB 校や IB 教育者と出会い、助け合えることも IB 導入の大きな意義の 1 つであると思われま。日本の学校の IB コミュニティも拡大しつつあり、草の根レベルでの交流や視察や学び合いも多く行われていま。一条校 IB 校の第一世代の学校が非常に多くの IB 校を大変快く受け入れてくださったことも大きなきっかけとなり、視察等を快く受け入れてく

ださる IB 校も多いです。日本の IB コミュニティの中でそのような「親切の和」の循環も見られるように思います。同じ志を持つ先生方とつながり、「IB 仲間」を増やしていくことができれば、それも IB 導入の大きな意義の一つとなるはずです。

IB 教育者はよく“IB Journey”という表現を使います。IB に関わり始めたらそれは「IB の旅」の始まりとなります。IB Journey のどこかで皆さまとお会いできるのを楽しみにしています。

## 引用・参考文献

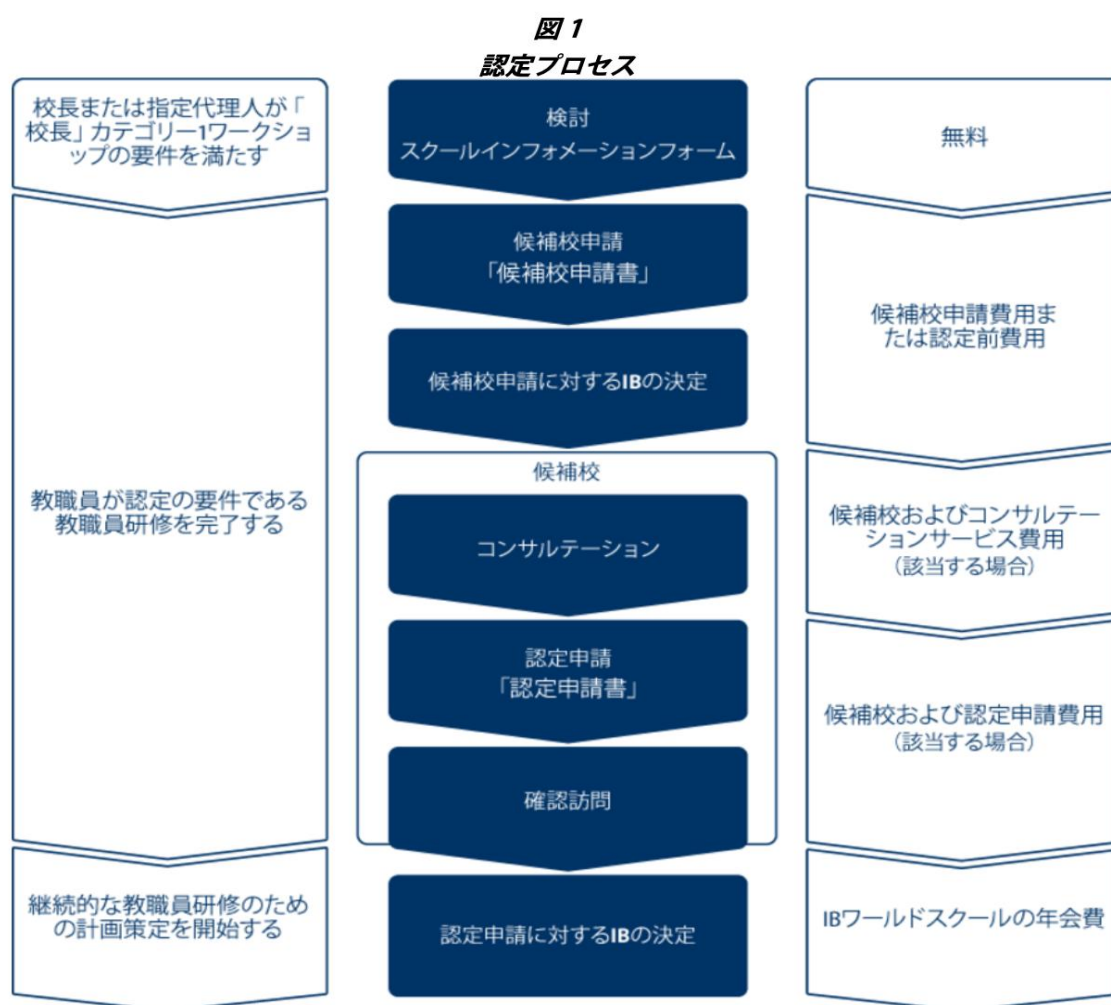
国際バカロレア機構. (2019). 国際バカロレア (IB) の教育とは. IBO.  
<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/what-is-an-ib-education-ja.pdf>

## 第2章 認定までのプロセス

本章は、IBO のホームページや公表資料を参照し、認定校の状況などをもとに記載しています。そのため、具体的な認定プロセスについては、[IBO の問合せ先](#)までお願いします。

以下は、『学校のための認定ガイド』（2022年3月発行の英語原本『Guide to school authorization』の日本語版2022年12月発行）2ページに記載されている認定プロセスのモデル図です。このプロセスに従ってこの章を進めます。

認定校までのプロセス



### 2-1. はじめに

IB の認定を目指す学校に知っておいてほしい大事な点は、申請し始める段階において、IBO が求める全ての要件に必ずしも準拠している必要はない、ということです。候補校申請書（AFC:Application for Candidacy）および申請時に作成するアクションプラン（後述）に沿って、認定に向けたプロセスが進んでいくこととなりますが、そのプロセスの中で

徐々に改善していく姿勢が求められます。IBO も、各学校の事情を尊重した上で、協力して認定を目指す支援体制を整備しています。

候補校になると、各候補校に IBO のコンサルタントが担当として就きます。コンサルタントは、IB の導入を目指す学校が認定を受けられるよう、当該学校と一緒に認定を目指していく IB の専門家です。コンサルタントからの助言を受けながら、コンサルタントと協働してアクションプランを組み立てていくことで、認定を受けられる仕組みになっています。

アクションプランの作成に際しては、学校内の関係者の調整が不可欠となりますので、事前に DP コーディネーター（この時点ではまだワークショップを受講している必要はありません）を中心とした IB 認定に向けたチームを形成していくことが重要です（DP コーディネーターの役割は第 3 章を参照ください）。また、IBO は、各学校の教育理念を重視しますので、この機会にしっかりとした教育理念を持って IB 教育に携わっていくという認識を、学内で共有することが必要となります。

なお、IBO は、これから IB の導入を目指す学校の参考に供するため、関係文書の一部を日本語に翻訳し、「[Resources for Schools in Japan](#)」としてウェブ上で公表しています。各種手続きの書類をはじめ、各科目ガイドなども日本語に翻訳されていますので、学校の管理者や教員の皆さまは是非ご覧ください。

## 2-2. スクールインフォメーションフォームの提出

スクールインフォメーションフォームの提出は、IB 認定に向けた関心校の最初のステップです。IBO のウェブページ「[Become an IB World School](#)」にアクセスすると、次ページの画面が出ます。

入力する内容は、学校名や校長名、住所などの基本的な情報で、オンラインで提出します。提出は無料です。スクールインフォメーションフォームは、今後その学校が認定校を目指す可能性（興味を持っている旨）を IBO に示すものです。スクールインフォメーションの登録を受けて、IBO から学校に対して IB 関連文書が送付されてきます。なお、スクールインフォメーションフォームをはじめ、IBO へ提出する書類は全て英語で記載します。

国際バカロレア機構のウェブページ「[Become an IB World School](#)」

**Become an IB World School**

Become an IB school

How to become an IB World School

[Become an IB World School](#)

The authorization process

Fees and services

Moving forward as an IB World School

Useful resources

How the IB World Schools Department can help your school

IB Publishing

Are you ready to start the process of becoming an IB World School and joining our vibrant global community of over 5,000 schools across 160 countries?

We invite you to express your interest in becoming an IB World School or simply requesting more information about IB education.

By filling out the form below you can either start your journey to become an IB World School, or simply request more information about the benefits of an IB education.

To find out more about how we use your data please review our [privacy policy](#).

Contact Details

School/Organisation \*

First Name \*

Last Name \*

Position/ Role \*

Email \*

Country/Territory \*

Programme of Interest \*

School Details

City \*

Postal Code \*

Website

## 2-3. 候補校申請書の提出

学校は、IBO に候補校申請に必要な書類を提出し、受理されると候補校となることができます。候補校申請を行う前に、学校の管理者（IB 導入の責任者で、多くの場合、校長または教頭）は、Administrator 対象の DP のワークショップを受講する必要があります。

候補校申請書は、指定された様式の「Application for candidacy」と各種添付資料で構成されます。候補校申請の際に必要な添付資料は、以下の4つです。

- ①アクションプラン
- ②学校の法的位置付けを示す書類
- ③管理団体からの財政援助を証明する書類
- ④組織図

候補校申請書は全て英語で作成する必要があります。「②学校の法的位置付けを示す書類」についてのみ、翻訳証明書（外部に翻訳を委託したことが分かる資料）が必要ですが、他の書類は学校内部で翻訳可能です。

### ①アクションプラン

アクションプランは、候補校申請書類を構成する文書の1つです。候補校・認定校申請の段階では、「プログラムの基準と実践要綱 2014年版 (Programme Standards and Practices 2014)」の基準に基づいて、申請段階における取組や今後の見通しなどを記載します。なお、IBOは「プログラムの基準と実践要綱 2020年版 (Programme Standards and Practices 2020)」を発行していますが、これは現時点（2024年10月）では、IB認定から5年ごとに受けるIBワールドスクールのプログラム評価に適用されています。

候補校申請書の提出時点で、全ての項目に対応している必要はなく、これから検討・準備するという項目があっても構いません。まずは、しっかりと学校の現状に合わせてアクションプランを作成・提出することが重要です。提出後、コンサルタントとのやり取りを通して改善を図っていきます。

アクションプランの様式は特に決まっていますが、次ページの例のような表を用いて作成しておくとし、MY School（申請書類の提出・IBOからの指摘事項の受領・学校とIBOのやり取りを行う公式オンラインシステムで、認定プロセス全体を通じて使用）のポータルサイトに入力したり、アップロードしたりしやすいです。詳細は、コンサルタントが決まってから相談してください。なお、アクションプランは英文による作成が必須となります。

## アクションプランの作成イメージ

**Action plan** ※これは、イメージ図です。

- Schools are required to use this template in planning their submission for authorization. It is organized according to the headings of the *Programme standards and practices*.
- School objectives will be defined in relation to the IB requirements for authorization to offer the Diploma Programme, as stated in the document *Guide to school authorization: Diploma Programme*. At this stage, it will also show school objectives to be developed beyond the planned authorization of the school.
- Add rows as necessary.

**AIM: To become an IB World school, implementing the Diploma Programme in** April 2027 **for first exams in** November 2030

(month and year) (month and year)

**A: Philosophy**

The school's educational beliefs and values reflect IB philosophy.

Objective (目的)	Actions (行動計画)	Date to be achieved (達成時期)	Person/group responsible for achieving this objective (目的達成責任者)	Budgetary implications (予算の見通し)	Evidence of achievement or of progress towards achievement of the objective (目的の達成または達成に向けた進捗状況の証拠)
The school community (students, parents, teachers, administrators) demonstrate an understanding of, and commitment to, the Diploma Programme.	We will have public guidance meetings and make information available explaining the mission statement, learner profile, course content and application procedure of the IB Diploma Programme for the school community.	2027	IBDP Pedagogical Leadership Team	○ Prefectural Board of Education will plan and carry out the public guidance meetings. There are no major budgetary implications, just staff time. The school's administrative office will address anything that arises.	The entire school community will continue to develop its understanding of the IBDP, IB philosophy and support its implementation.
The school supports access for all the students to the IB Diploma Programme and philosophy.	All the students have access to the IBDP and its benefits. By making the curriculum selective, we will make it possible for each student to participate in it after the selection process. The staff will give consultation to the students and encourage them to enter the full IBDP.	2027	IBDP Pedagogical Leadership Team	There are no major budgetary implications, just staff time. The school's administrative office will address anything that arises.	School Admission Policy requires that all the students have the access to the IBDP and select IBDP subjects. The policy also shows the details of the selection process of the students.

### ②学校の法的位置づけを説明する書類

公立校であれば、都道府県や市町村の学校設置条例（学校名が記載された別表等を含む）、国立大学附属学校であれば、国立大学法人法（法人化される前に設立された場合）または大学の設立に関する官報（国立大学法人化された後に設立された場合）、私立校であれば、設置認可書類、登記簿等の翻訳を外部に委託し、翻訳証明書を付して提出します。

### ③管理団体からの財政援助を証明する旨の書類

管理団体から、管轄の都道府県や市町村の教育長名や法人の理事長名等で、英文レターを提出します。参考までに記載例を掲載します。

#### 記載例

○○[Prefectural/Municipal] Monka School

To the International Baccalaureate Organisation,

○○[Prefectural/Municipal] Board of Education（都道府県や市町村の教育委員会、理事会、国立大学名等） is committed to financially support the implementation of International Baccalaureate Diploma Programme at Monka School.

June 20th, 2026

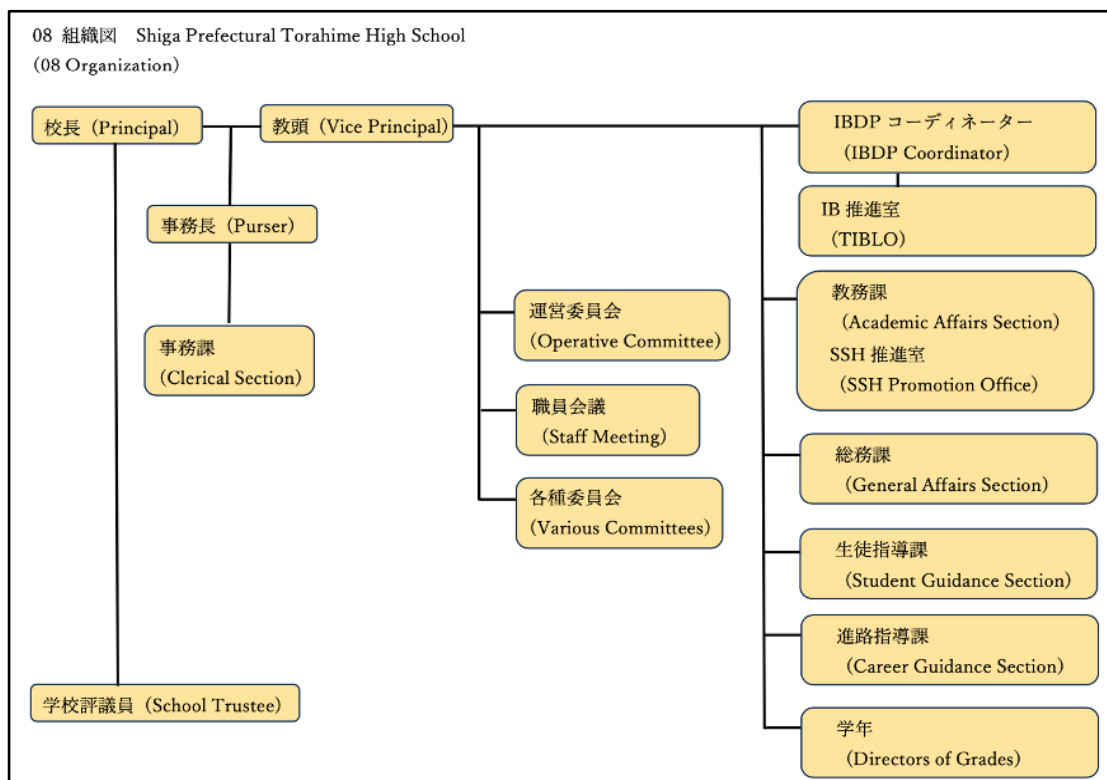
Tadakatsu Aoki

Superintendent of ○○[Prefectural/Municipal] Board of Education

#### ④組織図

学校の組織図の英語版を作成して提出します。組織図には、DP コーディネーターの位置付けを示す必要があります。

組織図の作成例（滋賀県立虎姫高等学校の場合）



#### 2-4. 候補校申請書の検討

学校が提出した候補校申請書は、IBO の担当者が内容を確認します。候補校申請書に形式的な不備がなければ、候補校として通知（申請から約2ヶ月）されます。なお、候補校認定後、学校はMy IBおよびIBIS（International Baccalaureate Information System）のログインに必要なパスワードなどが与えられることにより、以後これらのページに自由にアクセスできるようになります。

#### 2-5. コンサルタントの決定・訪問

学校が候補校として認定を受けた後、IBO がコンサルタントを決定します。候補校の学校はコンサルタントからの助言を無料で受けることができます。コンサルタントの助言は、学校が提出したアクションプランなどに従って行われます。何度かDP コーディネーターとコンサルタントがやり取りを行った後（基本的にウェブおよび電話にて英語で行います）、コンサルタントが実際に学校を訪問（2日間）します。コンサルタント訪問の際の国内交通費・宿泊費・食費は学校の負担となります。

コンサルタント訪問の結果は、コンサルテーションレポートとして学校に通知されます。コンサルテーションレポートは、項目ごとに3段階（良い、普通、もう少し等のイメージ）の評価が付されます。ただし、この時点で全てが「良い」評価である必要はなく、「普通」「もう少し」といった評価を受ける場合もあります。コンサルタントは、候補校が認定校を目指す中で、このレポートで「もう少し」の評価を受けた項目を中心に、改善のための助言を行います。

コンサルテーションレポートのイメージ図

<b>Section A: Philosophy</b>	
<b>Standard A:</b> The school's educational beliefs and values reflect IB philosophy.	
<b>A.1:</b> The school's published statements of mission and philosophy align with those of the IB.	
<b>Consultant checks that:</b>	<b>Analysis of school situation</b>
<p>The school has published statements of mission and philosophy.</p> <p>The school's statements of mission and philosophy are aligned with those of the IB to include reference that the school values education that goes beyond academic development.</p> <p>The school's statements of mission and philosophy are aligned with those of the IB to include reference to encouraging awareness beyond the individual and his or her immediate community.</p>	<div style="background-color: #92d050; padding: 5px; border: 1px solid black; display: inline-block;">Clearly demonstrated</div>
<b>Consultation visit: Findings and next steps for the report</b>	
The local community has strong opinion to implement IB programme into Torahime High School.	

## 2-6. 認定申請書の提出

前述のコンサルタント訪問を経て、何度かやり取りを行った後、コンサルテーションレポートの各項目がおおよそ「良い」評価になったところで、コンサルタントから学校に、認定校申請書の提出の許可通知があります。通知を受けて1ヶ月以内に、学校は認定校申請書をIBOに提出します。認定校申請は無料です。認定校申請は指定された様式の「Application for authorization」と各種添付資料で構成されます。内容は主に候補校申請時の資料を更新したものとなります。

## 2-7. 認定校申請書の検討

学校が提出した認定校申請書は、IBO の担当者が内容を確認します。提出から 42 日以内に IBO から IB 認定校および候補校専用のオンラインプラットフォームである MY School にフィードバックがあります。

IBO からのフィードバックに基づき、必要な課題の解消が求められ、場合によっては課題を解消したことを示す資料の再提出を求められる場合があります。そして、おおよそ書類検討による問題点が解決した後、確認訪問の日程調整が行われます。

## 2-8. 確認訪問

訪問日程調整後、確認訪問団（通常 2 名）が学校を 2 日間訪問し、認定校となるための準備が整っているのか最終的な確認を行います。確認訪問団の訪問の際の国内交通費・宿泊費・食費は学校の負担となります。なお、2 日間の訪問では、施設確認、所属の教育委員会など管理団体や教職員（校長、コーディネーター、各教員、図書館司書など）との面談、生徒および保護者との面談などが日程に組み込まれることになります。

## 2-9. 認定

確認訪問団の訪問後、レポートが My School に届きます。必要に応じて問題解決後、資料の再提出を求められる場合があります。特段問題がない場合は、認定の同意書が My School に届きます。この通知をもって、学校は IB 認定校として、DP の授業を開始することができるようになります。

## 2-10. 認定後の定期評価訪問

晴れて IB 認定校となった後も、学校は定期的に IBO の確認を受けなければなりません。5 年に 1 度実施される定期評価訪問がそれに当たります。

学校側は定期評価訪問に係る費用を負担する必要があります（詳しい費用については、『IB ワールドスクールのための手数料および支払いに関する情報』最新年度版を参照してください）。

なお、定期評価訪問は、全ての学校が IBO による訪問を受けるわけではありません。訪問を受ける場合には、学校には 1 年前にその旨の連絡があり、訪問に際しては、2-8. に記載した確認訪問と同様の対応を行う必要があります。一方、訪問を受けない場合でも、学校は書類による内部評価を提出し、IBO からその検討結果を受け取ることになります。

## 2-11. 認定までの学校の宣伝

2 章では認定までのプロセスを説明しました。学校は認定までの過程で関心校→候補校→認定校と進んでいきますが、昨今、「IB 校を目指す」という文言を学校のホームページやパンフレットで掲載し、生徒募集を行うケースが散見されており、IBO が事態を懸念しています。当然ながら、目指すことは認定を保証するものではなく、事態に遅延や決定的

な変更が出た場合、不利益を被るのは生徒、保護者、そして学校です。そのことを念頭に、宣伝については慎重に行ってください。IBO では、スクールインフォメーションフォームを提出済みで IB プログラムの提供を検討している学校は、現在の学校関係者および関係当局に計画を通知することができます。ただし、学校関係者以外の方が目にする可能性のある公開ウェブサイト、広告、または学校資料では、IB または IB プログラムについて一切言及してはなりません。また、候補校については、宣伝用の定型文を作成しています。誤解を避けるためにも、今後は次に記載されている言い回しを活用してください。

#### 候補校用

「〇〇学校」は、国際バカロレア (IB) ディプロマ・プログラムの候補校 (※) です。本校は、IB ワールドスクール (IB 認定校) としての認定に向けた申請段階にあります。IB ワールドスクールは、「質の高い、チャレンジに満ちた国際教育に信念をもって取り組む」という理念を共有する学校です。「〇〇学校」も、このような教育に取り組むことが、生徒にとって大切であると信じています。

(※) IB の「初等教育プログラム」(PYP)、「中等教育プログラム」(MYP)、「ディプロマ・プログラム」(DP) の3つのプログラム (および「IB キャリア関連サーティフィケート」) を実施することができるのは、国際バカロレア機構に認定された学校のみです。候補校であることは、IB ワールドスクールとして認定されることを保証するものではありません。国際バカロレア機構および IB のプログラムの詳細については、ウェブサイト (<http://www.ibo.org>) をご覧ください。

## 2-12. 認定までのスケジュール・フロー例

認定を受けるには、3段階を経ることになります。以下のスケジュール・フロー例は、令和9年度(2027年度)に向けて認定校を目指すケースです。

<スケジュール・フロー例>

Phase 1: Interested (関心の段階)

年月日	内容
2025年10月1日	候補校申請書の提出 (6,100SGD の支払い)
2025年10月29日	IB から My School にフィードバック (必要に応じアクションプランの再提出)
2025年11月27日	候補校の承認 (13,500SGD の支払い)

学校が候補校の承認を受けると、承認された翌月の1日に、候補校およびコンサルテーション・サービス料が学校に請求されます。この料金は、学校が IBO に認定申請を希望する旨を通知するまで、毎年請求されます。

Phase 2: Consultancy (コンサルタントの付く段階)

候補校の承認を受けて2週間以内に担当のコンサルタントが決定します。

認定申請の提出までに次のワークショップに参加する必要があります。

- Leading the learning - DP Category 1 (候補校の承認後6ヶ月以内にDPコーディネーターが参加)
- DP 科目 Category 1 (開講する科目の担当教員が参加)
- DP Theory of Knowledge (TOK) Category 1 (担当教員が参加)
- DP Creativity Activity and Service (CAS) Category 1 (担当教員が参加)

年月日	内容
2026年2月25日	コンサルタント訪問の計画と訪問
2026年4月1日	35日以内にMy Schoolにコンサルタントからフィードバックレポート
2026年6月25日	コンサルタンシーの終了日を設定し、コンサルタントとプログラム関連マネージャーに伝えると、My Schoolに認定申請ができるページがオープン
2026年7月23日	コンサルタンシーの終了日 28日以内にコンサルタントから報告書 コンサルタンシー終了日から1ヶ月以内に認定校申請書等を提出

Phase 3: Authorization (認定の段階)

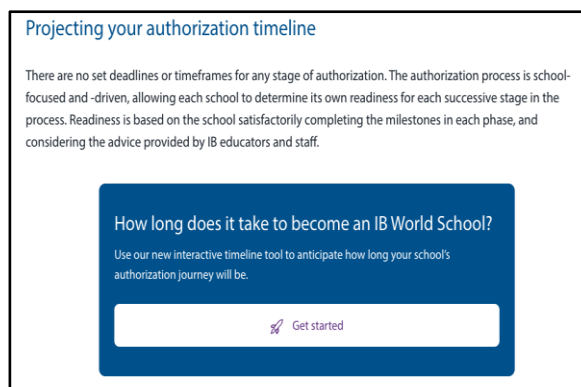
- 学校は認定申請書類 (Application For Authorization、各種方針、アクションプラン、各開講科目のコースアウトライン等) を作成するとともに、申請に必要な全ての基準や要件を満たす必要があります。
- IB0は学校の財務状況を確認し、学校はIB0に対して負債がないことを提示しなければいけません。

※申請のフィードバックは、My IB内のMy Schoolから確認ができます。

年月日	内容
2026年7月25日	認定校申請書等の提出
2026年9月2日	IBからMy Schoolに42日以内にフィードバック (必要に応じ問題解決後、資料の再提出)
2026年10月2日	確認訪問のスケジュールの提出
2026年11月14日	確認訪問 (2日間)

2027年1月9日	確認訪問後のレポートが My School に届く (必要に応じ問題解決後、資料の再提出)
2027年2月20日	認定の同意書が My School に届く
2027年3月6日	公式な認定書が郵送で学校に届く

この例のようにスケジュールを視覚化したい場合は、まず、各学校が認定を受けたい時期から逆算して、申請時期を決めます。IB ホームページの検索ボックスで「the Authorization Process」と入力すると右図を含む画面が出るので、「Get started」をクリックします。ディプロマ・プログラムを選び、再び「Get started」をクリックすると認定までの3段階が出てきます。日付選択「Select date」するとスケジュールが視覚化されます。



### 2-13. 認定プロセスにおける必要コストについて

年会費は、学校が認可された後、指定された請求サイクルに従って適用されます。学校は、学年または学校の主な外部評価試験の実施時期によって、5月実施校または11月実施校に指定されます。5月実施校は9月、11月実施校は3月に請求されます。

#### 引用・参考文献

- 『学校のための認定ガイド』（2022年3月発行の英語原本『Guide to school authorization』の日本語版2022年12月発行）
- 「Resources for Schools in Japan」 <https://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/>
- 国際バカロレア機構のウェブページ「Become an IB World School」
- 「プログラムの基準と実践要綱 2014年版 (Programme Standards and Practices 2014)」
- 『IB ワールドスクールのための手数料および支払いに関する情報』
- 国際バカロレア機構のウェブページ「the Authorization Process」 <https://www.ibo.org/become-an-ib-school/the-authorization-process/>

## 第3章 コーディネーターおよび教員の確保

### 3-1. コーディネーターとは

コーディネーターは、IBの導入を図る際に必要な役職であり、認定校になった後もIBの運営において最も重要な役割を果たします。コーディネーターは、IBに係る全ての関係者（IBO、学校管理者、教員、生徒、保護者など）との間の連絡調整を担います。IBOとのやり取りは全て英語で行われます。IBの教育理念について精通しているだけでなく、認定に向けたプロセス、カリキュラムの作成・評価、試験の実施等について十分に理解し、リーダーシップを発揮する必要があります。

コーディネーターは、教科担当の常勤教諭が務めるのが前提ですが、これは、他教員に対して指導的な立場に立つため、現場を熟知している教員が責任を担うのが望ましいとの理由からです。なお、コーディネーターになるためには、IBOが実施するコーディネーター対象のワークショップを、確認訪問時まで受講する必要があります。

また、コーディネーターは前述の通り、IBOとの連絡調整はもちろん、校内の組織運営においても中心的立場になるため、持ち時数も考慮する必要があります。学校の規模や方針によりますが、コーディネーターがコア科目（Theory of Knowledge (TOK)、Extended Essay (EE)、Creativity, Activity, Service (CAS)）を担当することはIBOも推奨しています。IB導入当初は、コーディネーターがIBクラスの担任、IB生の進路指導なども担当する場合も多いようです。

### 3-2. IB教員とは

IB教員は、Teacher（教える者）というよりFacilitator（促す者）と表現されます。単に教壇から知識を伝達するのではなく、生徒間の議論を促し、アイデアを引き出すことが求められるからです。IB教員として認定されるためには、IBOが主催するワークショップに参加することが必要です。原則3日間のワークショップ（対面、ヴァーチャル、オンラインワークショップ）に参加すれば、IB教員として現場に立つことが可能ですが、教員は、科目ガイドが改訂されるタイミングで、その都度ワークショップに参加する必要があります。

学校として、コーディネーターを中心に管理職を含めて委員会を立ち上げる必要があります。

### 3-3. ワークショップについて

ワークショップとは、IBにおける教員研修のことです。ワークショップの全てのセッションに参加すると、該当する研修参加認定証が授与されます。

通常、1つのワークショップ（対面またはヴァーチャル）は3日間にわたり実施されます。オンラインのワークショップは2～4週間程度となります。研修は、カテゴリー1～3があります。

<ワークショップの種類（参加必須のもの）>

【学校の管理者等を対象にしたワークショップ】

- アドミニストレータワークショップ：人事や予算など、学校経営を担う人を対象として、IB の理念や学校内の協働方法などについて学びます。
- コーディネーションワークショップ：IB に関する全ての調整実務を担当するコーディネーターの育成を行います。

【教職員を対象にしたワークショップ】

- 教科別ワークショップ：1～6 の各グループの全ての教科のほか、EE・TOK・CAS の3要件についてのワークショップが用意されています。担当する教科のワークショップ（カテゴリー1）を修了すれば、IB 教員の資格を得られます。なお、科目内容が改訂されるごとに受講する必要があります。参加費に関しては、「第4章 費用について」をご覧ください。

DP の場合、最低限参加しなければならないワークショップは以下のとおりです。

ワークショップの種類

ワークショップの種類（DP）	対象者	必要となる時期
Administrator	校長・教頭などの学校管理者	候補校申請まで
DP Coordinator（カテゴリー1）	コーディネーターとなる者	確認訪問まで
TOK（カテゴリー1）	TOK の教員となる者	確認訪問まで
CAS（カテゴリー1）	CAS コーディネーターになる者	確認訪問まで
その他の各科目（カテゴリー1）	各科目の教員となる者	確認訪問まで

**カテゴリー1**：申請を決めた学校向けに、専門的能力や支援を提供するもの。原則として、このワークショップを受講すれば、IB の教育者としての資格が付与されます。

**カテゴリー2**：経験のある IB 教育者向けに、プログラムの実施に焦点を当てたフォーラムを提供するもの。

**カテゴリー3**：経験のある IB 教育者向けに、専門的な能力を構成・強化するためのフォーラムを提供するもの。

また、候補校申請までにアドミニストレータ対象のワークショップを受講しなくてはなりません。

<参加手順>

国際バカロレア機構の [HP](#) から申込み（SGD を電子送金）

開催地までの交通費宿泊費は参加者負担

### 3-4. 大学における IB 教員養成

IB 教員の養成のための動きも出てきています。現在、国内において IB の教員養成に取り組んでいる大学は次の通りです。

- 岡山理科大学 IB 教員養成プログラム
- 関西学院大学 国際バカロレア (IB) 教員養成プログラム
- 国際基督教大学 (ICU) IB 教員養成プログラム
- 聖隷クリストファー大学 国際バカロレア教員養成プログラム
- 玉川大学 IB (国際バカロレア) 研究コース
- 筑波大学 教育学学位プログラム国際教育サブプログラム
- 東京学芸大学 国際バカロレア教員養成特別プログラム
- 都留文科大学 教養学部国際教育学科

文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムでは、こうした大学・大学院を含む大学関係者を対象に情報交換会を開催するなど、好事例が国内に広がっていくよう協力しています。

### 3-5. 特別免許状の活用

我が国の教員免許を持つ教員が IB 科目を教える場合は、上記のワークショップや IB 教員養成大学において IB 教員の資格を取得する方法がありますが、逆に外国人など我が国の教員免許を持たない人材を IB 教員として雇用する場合で、学習指導要領に位置付けられた教科・科目に対応する教科・科目を担当する場合は、我が国の教員免許が必要となります（なお、IB 科目を学校設定教科として実施する場合でも、その内容に最も近い科目の教員免許が必要です）。

その際、是非活用いただきたいのが「特別免許状」制度です。社会人など優れた知識・経験を持つ人材を対象に、都道府県教育委員会が授与することとなっています（授与に係る審査基準は、都道府県教育委員会ごとに定められていますが、文部科学省で指針を策定しています）。実際に、札幌市教育委員会ではこの特別免許状制度を活用して外国人の方を登用しています。特別免許状の活用についての詳細は、文部科学省あるいは各都道府県教育委員会の担当部署までお問い合わせください。特別免許状制度の詳細については、文部科学省ホームページを参照ください。

### 3-6. 教員の採用に係るその他の方法、校内研修

どの学校においても、IB 教員の確保は大きな課題になっています。特に、地方都市での IB 教員の確保は難しい場合が多く、人件費の問題もあります。

## 第4章 費用について

—IBDP 導入・運営にあたって必要となる費用はどのくらい？—

### 4-1. 学校の費用負担

IBDP 認定校になるまでの費用と認定後の費用に分けられます。認定校になるまでのプロセスは第2章も参照ください。

#### 4-1-1. IBDP 認定校になるまでの学校の費用負担 (IBO に対しての費用)

IBDP 導入にあたって必要となる費用は、大きく IBO に支払うものとそれ以外のものに分けられます。まずは IBDP 導入にあたって必須となる IBO に支払うものを確認します。ただし、これらの費用は毎年変更があるため、詳細は関連資料や以下のリンクでご確認ください。なお、IBO への支払いはシンガポールドル (SGD) で行われます。

Fees and services (IBO) <https://www.ibo.org/become-an-ib-school/fees-and-services/>

以下は、学校が IBO に対して支払う必要のある費用の一覧です。表中の日本円の表記は、2024年10月6日現在のレート (1SGD=114.09円) に基づく概算です。

学校が IBO に対して支払う費用

項目	費用	含まれるもの
候補校申込費用 【必須】	SGD 6,100/回 (695,949円)	候補校認定とコンサルタントの任命
候補校年間費用 【必須】	SGD 13,500/年 (1,540,215円)	年間20時間までのコンサルタントによる支援 2日間のコンサルタント訪問と、訪問・終了レポート MyIBのPRC (Programme Resource Centre) へのアクセス 2日間の確認訪問と訪問・終了レポート ※対面でのコンサルタント訪問、確認訪問の際には、訪問官の空港からの交通費、宿泊費、食費等は学校の負担となります。
認定校年間費用 【必須】	SGD 15,210/年 (1,735,309円)	IB認定校になった後に必要となる費用 IB認定校に対する各種サービス
ワークショップ 参加費(対面) 【必要に応じて】	SGD 996/人 (113,634円)	3日間の対面でのワークショップ参加費用 (2ヶ月前までの早割ではSGD 916/人) ※昼食込。交通費・宿泊費は含みません。

ワークショップ 参加費(virtual) 【必要に応じて】	SGD 760/人 (86,708 円)	3日間のオンライン (Virtual: 同期型) のワークショップ参加費用 (日本語での実施もあり) ※リアルタイムでのオンラインワークショップで、日本向けの講座であれば日本語で、日本時間での実施です。
ワークショップ 参加費(online) 【必要に応じて】	SGD 450/人 (51,346 円)	1ヶ月間のオンライン(非同期型)でのワークショップ参加費用・英語での実施 ※各自で課題に取り組み、毎週火曜に課題を提出、他の参加者の意見にコメントを入力したり協働作業をしたりすることもあり。毎週末にZoomで質問タイムを取る講座も多いです。

立ち上げ時は多くの教員がワークショップに参加する必要があります。検討中の段階では、Head of School (校長・管理職向けワークショップ) と Leading the Learning (主にコーディネーター向けワークショップ) に、校長とコーディネーター候補の教員が参加するのが望ましいです。認定後は、カリキュラムが改訂になった際の参加や、1～2年 IBDP 授業を担当した後に経験者向けの「カテゴリー2」に参加することが一般的です。

#### 4-1-2. IBDP 認定校になるまでの学校の費用負担 (IBO 以外に対する費用)

IBO に対して支払う以外の学校の費用負担としては、まずは IB 校認定のための施設整備が挙げられます。特に、試験問題の保管庫と理科の実験室の整備は、追加の費用が必要となる学校が多いと思われます。

理科の実験室に関して追加の費用が必要となる設備等の例は以下の通りです。詳細は「ディプロマ・プログラム (DP) 「理科」実験室および作業室の安全管理」の資料も参照してください。

- ガスや電気を一括停止できるマスタースイッチ
- 消火器、防火用毛布、ドラフトチェンバー、非常用シャワー、救急用具、洗眼設備
- 化学薬品保管のための、施錠可能な換気された部屋 (化学)

試験問題の保管庫は、金庫を設置する部屋にも要件があります。天井が「天板」ではない (「屋根裏」がない) 部屋、窓がない部屋 (窓がある場合には防犯センサーを設置)、金庫のある部屋には鍵がかかること、部屋の入口のあるエリアを生徒が自由に行き来できないことなどの要件があります。ある学校の例では、体育館の階段の下の倉庫の中に金庫を入れ、最終試験の期間中は階段に通じる1階と2階のドアに鍵をかけるという運用をしています。階段下の倉庫は窓もなく、屋根裏もないことから、試験問題の保管庫として利用している学校も多いようです。

また、人件費も大きな問題の1つかもかもしれません。日本人の専任教員がIBのワークショップを受講して、日本語・理科・社会・数学・芸術などの科目を担当する場合には、通常の授業と同様の扱いで人件費的には追加は不要かもしれません。

問題は、English B 以外にもう1科目英語で開講しないといけない点です。言語の影響が比較的少ない数学を英語で提供する学校もあれば、言語的にはよりハードルの高い理科や社会を英語で実施している学校もあります。日本人の数学や理科や社会の教員が英語を学び、それらを英語で教えている例もありますが少数派です。多くの学校では、英語以外の教科を英語で教えられる外国人の教員を採用することが多いようです。

私立学校の場合には、学校や理事会が主体となって、「業務契約書（ジョブディスクリプション）」でホームルームや部活、掃除などの業務は外した上で、年棒制の特別な契約をすることもあります。専任として学校にすでに在職している外国人の教員が English B を担当することも多いですが、実は大学では経済が専攻だったとか、美術も教えられる、などの場合には、そのまま専任としてそれらの授業を担当してもらうという方法もあるかもしれません。

公立学校の場合には、都道府県や市町村の教育委員会を通しての採用となるかと思えます。その採用部署との連絡を密にして、理解と協力を得られるようにしておくことが重要です。

その他、認定までに必要となり得る費用としては、図書の整備費（英語資料の追加など）や、教員の準備のための資料費（テキストのサンプル購入等）などがあります。また、最終試験の会場は、生徒間の距離を1.5m以上取る必要があります。防音は必須ではありませんが、チャイムや放送が入らない方がよく、また16時過ぎも試験が続くことがあるので、部活などの音の影響の少ない場所が望ましいです。

#### 4-1-3. IBDP 認定校になってからの学校の費用負担

認定校になってからは、IBO に対して支払う費用としては、前述の認定校の年間費用（例年2月に徴収）や、教員研修のためのワークショップの費用などが挙げられます。また、例年3月にアジア太平洋地区にて「IB Global Conference」という会議が開かれます。参加は必須ではありませんが、日本だけでなく世界各国のIB教育者が1,000名～2,000名参加して、教育界の著名人による講演や、分科会形式にて現場での実践の共有などもあります。参加費は10万円前後かかりますが、有益な情報を得られたり、IB関係者とのネットワークを広げたりする良い機会となります。

IBOへの支払い以外では、もしManageBacやTurnitinなどのLearning Management Systemを利用するのであれば、それらの費用もかかります（ただし、これらは生徒から実費徴収している学校もあります）。Google ClassroomやMicrosoft Teamsなど、費用のかからないツールで代用している場合もあります。

また、IB主催のワークショップ以外での教員研修（他校視察や「ジョブアライク」への参加の旅費等）も費用となり得ます。また、参加は必須ではありませんが、コーディネーターや校長向けにIBAJ（日本国際バカロレア校連盟）主催の会議や国内のコーディネーターネットワーク会議なども開催されており、有益な情報やつながりが得られる機会となります。

意外と予算措置が必要となるのが最終試験の郵送料で、開講している科目数や受講人数にもよりますが、7～8万円から、多いと20万円近くになります。試験が終了後24時間以内に、各科目とSL/HLも分けて、EMSでイギリスのカーディフに郵送します。1通3,000円前後の費用がかかります。

#### 4-2. 生徒の費用負担

IBDPの生徒・保護者が負担する費用にはどのようなものがあるのでしょうか。多くの高校では、IBDP生はそうでない生徒より授業料が高いケースや、通常の学費に加えて「IB教育費」のような形で年間で数十万円程度、別途徴収している学校もあるようです。ただし、私立学校でもIBでない生徒と授業料は同じであったり、「特待生」という位置付けでIBに関わる費用が支給されたり、公立学校においても、学校の同窓会が奨学金財団を設立して、一定の要件を満たせばIB生に支援金が支給されるようなシステムを持つ学校もあるようです。

高校がIB生から追加で徴収する学費の中に何を含めるのかは学校の判断によります。例えば、前述のManageBacやTurnitinなどはプラスの学費の中から学校が支出するケースが多いようです。また、IBに支払う受験料（後述）はIB生の追加の学費とは別で徴収し、答案を郵送する費用は高校で学費の中から支出というケースが多いようです。

##### 4-2-1. IB0 に対しての費用

以下は各生徒がIB0に支払う必要のある費用です。支払い自体は学校がまとめて支払うこととなります。生徒の自己負担とする場合には、授業料口座などから必要な費用を引き落とし、学校でまとめてIB0に支払うようになります。ただし、再採点費用の請求がIBから来るのは例年5月頃で、生徒たちは3月に卒業してしまうので、費用徴収をどうするか確認が必要です。

各生徒ごとにIB0に対して支払う費用

項目	費用	含まれるもの
最終試験受験料 【フルDPは必須】	SGD 876 (99,943円)	1科目あたりSGD 146で6科目分。コア科目はDP候補生の場合には支払い不要。
コア科目受験料 【フルDPは不要】	SGD 181 (20,650円)	コース生（DP取得はせず、いくつかの科目のみ履修の生徒）のみ、コア科目を申し込む場合に必要。内訳はEE（SGD 113）、TOK（SGD 57）、CAS（SGD 11）で個別支払い可能。

再採点費用 <sup>1</sup> Enquiry upon results 【必要に応じて】	SGD 146 (16,657 円)	最終試験後、再採点を依頼し、点数が変更となった場合には無料。点数が変更なしの場合には支払いが必要。1 科目あたり (EE は別) の費用。
--	-----------------------	---

#### 4-2-2. IB0 に支払う費用以外に必要な費用

IB0 に支払う費用以外には、どのような費用が必要となるのでしょうか。生徒が支払うもの、学校が費用負担をするものと大きく分けられますが、学校によりその運用が変わるようなものもあります。

生徒が負担する費用は、学校により異なりますが、教科書や教材等を利用する場合にはその費用が必要となります。理科・社会・数学などの授業は、日本語で行われる場合でもテキストは英語版であることがほとんどです。これは、まだ日本語版の需要が多くないためです。為替レートの関係もあり、1 冊 1 万円前後と高価ですが、2 年間利用できます。紙版のテキストの中には、オンラインテキストへのアクセス権がついているものもあります。

以下はある出版社のテキストの価格の例です。(2025 年 1 月 23 日現在、£1=192.74 円での換算です)

ある出版社のテキストの価格の例

テキスト	価格	日本円換算額
経済学教科書	£59.50	¥9,748
化学教科書	£59.50	¥9,748
生物学教科書	£59.50	¥9,748
物理学教科書	£57.00	¥9,338
数学分析とアプローチ	£33.99	¥5,568
環境システムと社会	£54.99	¥10,599

また、理科・数学・経済などで利用するグラフ電卓も購入が必要です。為替レートの関係もあり、2025 年 1 月現在では 25,000 円～30,000 円程度の価格となっています。

<sup>1</sup> IB からスコアが発表されると、生徒達はそれぞれの ID とパスワードで IB の個人用サイトから点数を閲覧できます。あと何点で 7 段階中の上の段階に上がるかも表示されます。あと 1～2 点などの場合に再採点を申請する生徒が多いです。ただし、再採点により点数が変更となることは少ないです。

日本のカリキュラムでは塾や予備校に通う生徒も多いですが、IB 生に対応した塾やチューターはオンラインとなり、1時間あたり 7,000 円から 8,000 円などで受講することは可能です。しかし、第 1 章でも述べた通り、まずは自分で試行錯誤して「学び方を学ぶ」ことが重要です。チューターの宣伝の中には、「学校の勉強だけでは効率的な勉強ができない」のように煽るものもありますが、「効率よく」勉強することで「学び方を学ぶ」機会を失っては本末転倒です。まずは自分で試行錯誤してみて、学校の先生に質問するなどして、その上でもし生徒本人がチューターや数学・英語などの塾・予備校が必要だと思えば、そのニーズに応えられるものを探してもよいでしょう。なお、チューター企業の中には「IA や EE の添削もします」というところもありますが、その指導は IB の「学問的誠実性」に完全に反するものなので注意が必要です。添削の事実が明らかになれば DP は失格となります。スコアも重要ではありますが、IB のど真ん中にあるのはあくまでも「10 の学習者像」であることを心に留めておきたいものです。

もし留学を考える場合には、TOEFL や IELTS の受験が必要となります。以下はおおよその受験料です。理想的には、高校 2 年生が終わるまでに希望する大学の要求基準を超えていると、高校 3 年での IB 生活への負担も減ります。基準を満たせない場合には、高校 3 年の 12 月近くまで粘って何度か受験する生徒もいます。

TOEFL IBT と IELTS の受験料(2025 年 3 月 25 日現在)

	アメリカドル	日本円
TOEFL IBT	\$245	36,681 円 (\$1=149.72 円 / 2025. 2. 25)
IELTS		25,380 円 (英語検定協会)

#### 引用・参考文献

The International Baccalaureate®. (n. d.). *Assessment Fees and Services*.

<https://www.ibo.org/become-an-ib-school/fees-and-services/assessment-fees-and-services/>

The International Baccalaureate®. (n. d.). *What Is IB Professional Development?*

<https://ibo.org/globalassets/new-structure/professional-development/pdfs/ib-global-pdd-fees-chart-en.pdf>

## 第5章 カリキュラムについて

### 5-1. IBDP カリキュラム

DP カリキュラムは、下図のような円形モデルで表現されます。中心には「学習者像（IB Learner Profile）」が据えられており、その周囲を「指導の方法」と「学習の方法」、3つのコア科目と6つの教科が囲んでいます。これが、一番外側に書かれている「International-Mindedness（国際的な視野）」を育てるIBDPの教育です。



<http://www.ibo.org/en/programmes/diploma-programme/>

IBDP に取り組む生徒は、以下の重要な要素を持つことが求められます。

- 成功への強い個人的モチベーション
- 時間管理スキルと物事をまとめる力を向上させる意欲
- 読み書きと数学のしっかりとした基礎力
- 「知識」に対する誠実さ

### 5-2. IBDP 教科と科目

IBDP では、6つの教科と3つのコア科目（TOK、CAS、EE）を通して全人的な教育を実施し、知力だけでなく、探究心や自ら進んでものごとに取り組む精神を育成します。生徒はDPの2年間に、上級レベル（Higher Level: HL）を3科目以上（各科目240時間）、標準レベル（Standard Level: SL）を3科目以上（各科目150時間）履修しなければなりません。

3つのコア科目のうち、「知の理論（TOK）」では100時間以上の履修が必要です。

「創造性・活動・奉仕（CAS）」は、DPの開始と同時に正式に始まり、定期的には週1回以上のペースで3時間程度、少なくとも18ヶ月にわたって継続する必要があります。「創造性」「活動」「奉仕」の3つをバランスよく実践することが求められます。また、最低1ヶ月にわたるCASプロジェクトに取り組む必要があります。

「EE（課題論文）」では、自分で決めたテーマで研究し、日本語では6,000～8,000字（英語では3,000～4,000ワード）にも及ぶ論文を完成させます。生徒はCASとEEについて、授業時間外で取り組み、完成させなければいけません。

この3つコア科目にしっかり取り組むことはIBDPでは極めて重要とされており、TOK、CAS、EEの必須条件を満たさなかった場合、6つの科目で高成績を得てもディプロマを取得することはできません。

### 5-3. IBDP 成績評価

IBDP は大学での勉強の準備として高く評価されていますが、その理由の1つは、評価方針が信頼されているからです。明確で詳細な評価方法と基準が設定されており、各生徒はそれに照らして評価されます。最終試験の評価基準が毎年の試験ごとに変わることはありません。

2年間のIBDPの終わりに、各生徒はIBからディプロマのそれぞれの部分についての成績を受け取ります。この最終成績は、(1)「内部評価 (Internal Assessment : IA)」と(2)「外部評価 (External Assessment : EA)」の評価で決定します。生徒はこれらの評価対象の課題を、決められた日までに遂行しなければなりません。

#### 5-3-1. 内部評価 (IA) : 20~30%

- 学内の教員が行います。
- 評価の対象となる課題等は科目によって異なります。
- 教員により評価された IA のサンプルは、外部の採点官によって評価の適正化が行われます。

ほとんどの科目では、学内で教員によって数回の評価が行われますが、科目により様々な評価方法が用いられます。例えば、語学の口頭試問、歴史研究、実験、数学的研究、芸術パフォーマンス、TOK の展示会などがあります。指導教員によって評価された IA は、評価の適正化のために、規定の数が外部の採点官によって確認されます。これは、評価の客観性・正確性と全 IB 校間の一貫性を確保するためです。

IA の課題は各教科で多大な量になるため、教員間で話し合って提出時期を分散し、生徒の過重な課題量を軽減するようにしています。主な IA の提出期限は DP カレンダーに記載し、生徒と保護者に知らせます。

#### 5-3-2. 外部評価 (EA) : 70~80%

- 世界統一試験 (国際バカロレア試験) を一斉に実施します。
- 日本のデュアルランゲージプログラムでは 11 月に受験します。
- 全ての試験は IB の定めた試験官 (IB Examiner) によって採点されます。

#### 5-3-3. IBDP 最終評価

最終得点の大部分 (50~75%) は、前述の「外部評価」として示されている世界統一試験によって定められます。世界統一で試験をすることにより、最終得点の客観性と正当性を保つためです。全ての試験は学外の教員やプロによって採点され、審査長によって適正化 (moderate) されます。その試験方法は内部評価と同じく、多様な形式の質問が使用され、科目によってはその性格上、実技試験形式の最終試験を受けるものもあります。

ディプロマの認定には、45 点満点 (7 点×6 科目+「知の理論」「課題論文」で合計 3 点) のうち、最低 24 点が必要です。最終得点に関係なく、CAS の必要要件を満たさなければ

ば、ディプロマは取得できません。各科目は7点満点ですが、得点は下記のようにつけられます。

各科目得点の意味

7	Excellent Performance
6	Very Good Performance
5	Good Performance
4	Satisfactory Performance
3	Mediocre Performance
2	Poor Performance
1	Very Poor Performance

「知の理論 (TOK) 」と「課題論文 (EE) 」の成績は、評価 A~N でつけられ、下記の表のように点数に換算されます。

「知の理論 (TOK) 」と「課題論文 (EE) 」のスコア換算表

		知の理論 (TOK)					
		評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	評価 E	評価 N
課題論文 (EE)	評価 A	3	3	2	2	不合格	
	評価 B	3	2	2	1		
	評価 C	2	2	1	0		
	評価 D	2	1	0	0		
	評価 E	不合格					
	評価 N	不合格					

#### 5-3-4. IB ディプロマ (IB 修了証書) 取得条件

IB ディプロマを取得するためには、HL 科目で合計 12 点、全体で 24 点以上をとらなければなりません。その他にも様々な条件があり、下記の表の条件を全て満たして初めて IB ディプロマを取得できます。

- CAS を修了していること
- TOK と EE のどちらにも「E」がないこと
- どの科目にも N（評価なし）がないこと
- 合計 24 点以上であること
- HL 科目の合計点が 12 点以上であること
- SL 科目の合計点が 9 点以上であること
- 成績が「1」の科目がないこと
- 成績が「2」の科目が 2 科目以内であること
- 成績が「3」以下の科目が 3 科目以内であること
- 学問的不正行為の処分を受けていないこと

#### 5-4. IBDP カリキュラムの作成

では、このような評価基準のもと、IBDP サーティフィケートを取得するためのカリキュラムをどのように組めば良いのでしょうか。

##### 5-4-1. 1 年次 (Grade 10) のカリキュラム

一条校であるならば、日本の学習指導要領の必履修科目を高校卒業までに履修しなければなりません。高校 1 年次に、必履修科目をできる限りカリキュラムに組み込み、不足分を「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例の一部を改正する告示について（通知）（3 文科初第 1766 号 令和 3 年 12 月 28 日）」の対応表によって IB 科目を必履修科目に読み替えます。

##### 必履修科目

- 現代の国語（2 単位）
- 言語文化（2 単位）
- 地理総合（2 単位）
- 歴史総合（2 単位）
- 公共（2 単位）
- 数学 I（3～2 単位）
- 「科学と人間生活」を含む科目、もしくは基礎を付した科目を 3 科目
- 体育（7～8 単位）
- 保健（2 単位）
- 芸術 I（2 単位）
- 英語コミュニケーション（3～2 単位）
- 家庭基礎（2 単位）もしくは家庭総合（4 単位）
- 情報 I（2 単位）
- 総合的な探究の時間（3～2 単位）

## 1年生のカリキュラム例

各高校の1年次カリキュラム例を以下に示します。IBDP 導入校が日本の学習指導要領の必履修科目をどのように組み込んでいるかが分かります。

### 岡山理科大学附属高等学校

教科	科目
国語	教科科目国語現代の国語（2単位）、言語文化（2単位）
地歴公民	地歴公民地理総合（2単位）、歴史総合（2単位）、公共（2単位）
数学	数学Ⅰ（4単位）
理科	科学と人間生活（2単位）、化学基礎（2単位）
保健体育	保健体育体育（2単位、2年次に2単位、3年次に3単位）、保健（1単位、2年次に1単位）
芸術	美術（2単位）
外国語	英語コミュニケーション（4単位）、論理英語（2単位）
家庭科	家庭基礎（2単位）
情報	情報Ⅰ（2単位）
学校設定科目	IB入門（2単位）
総合的な探究の時間	なし（2年次に TOK 3 単位、3年次に TOK 2 単位で読み替え）

### 滋賀県立虎姫高等学校（令和6年度入学生）

教科	科目
国語	現代の国語（2単位）、言語文化（3単位）
地歴公民	公共（2単位）
数学	SS 数学Ⅰ（5単位）、IB 数学（1単位）※一般生は SS 数学Ⅱ（1単位）
理科	物理基礎（2単位）、生物基礎（2単位）
保健体育	体育（2単位、2年次に2単位、3年次に3単位）、保健（1単位、2年次に1単位）

芸術	音楽・美術・書道（2単位）
外国語	英語コミュニケーションⅠ（3単位）、論理表現（2単位）
家庭科	家庭基礎（2単位）
情報	情報Ⅰ（2単位）
学校設定科目	究理Ⅰ（1単位）
総合的な探究の時間	実施なし（1年次に究理Ⅰ1単位、2年次にTOK2単位、3年次にTOK2単位で読み替え）

#### 仙台育英学園高等学校

教科	科目
国語	現代の国語（2単位）、言語文化（2単位）
地歴公民	地理総合（2単位）、公共（2単位）
数学	数学Ⅰ（3単位）、数学A（2単位）
理科	物理基礎（2単位）、生物基礎（2単位）、化学基礎（2単位）
保健体育	体育（3単位、2年次に2単位、3年次に2単位）、保健（1単位、2年次に1単位）
芸術	音楽Ⅰ（2単位）
外国語	英語コミュニケーションⅠ（3単位）、論理・表現Ⅰ（2単位）
家庭科	家庭基礎（2単位）
情報	2年次に2単位
総合的な探究の時間	MYPのPP（パーソナルプロジェクト）（1単位）

#### 5-4-2. コースアウトラインの作成

DP フルディプロマ取得のためには、提出課題および世界統一テストを見据えたコースアウトラインの作成が必要です。EE および各教科の内部評価は生徒の大きな負担となります。IBIS への最終提出は EE を含む外部評価用の提出物が9月中旬、モデレーション用内部評価の提出が10月中旬ですが、多くの課題が提出前に重なってしまうと生徒は世界統一試験

に対する対策ができなくなるため、各教科間のスケジュールを調整し、全ての成果物は遅くとも7月末には完了させておくことが望ましいです。

#### 岡山理科大学附属高等学校 スケジュール例

- 1年生11月：EE説明会
- 1年生1月：EEプロポーザル第1案提出
- 1年生3月：EEプロポーザル最終版提出
- 2年生4月：EE科目決定、第1回面談
- 2年生5月：IBISへのEE科目登録（必須）
- 2年生8月：EEアウトライン（4,000字）提出、第2回面談
- 2年生1月：EEファーストドラフト提出
- 2年生3月：EE最終版提出
- 2年生3月：最終面談

#### 滋賀県立虎姫高等学校 スケジュール例

- 1年生2月：EE科目選択説明 → 3月中にEE科目決定
- 2年生5月：EEプロポーザル提出、第1回セッション
- 2年生5月：IBISへのEE科目登録（必須）
- 2年生10月：EE中間発表
- 3年生12月：EEアウトライン提出
- 2年生1月：EE初稿提出、第2回セッション
- 2年生3月：EE最終稿提出
- 2年生3月：最終面談

#### 仙台育英学園高等学校 スケジュール例

- 1年生3月：第1回EE科目調査
- 2年生4月：EE科目調査（最終）、スーパーバイザー決定
- 2年生5月：IBOへ科目登録（DPコーディネーター）
- 2年生7月：第1回面談
- 2年生12月：EEプレゼンテーション（中間報告会）
- 2年生2月：第2回面談
- 3年生4月：ファーストドラフト提出
- 3年生8月：最終面談

#### 5-4-3. 各授業の計画

DPフルディプロマ取得のために必要なスキルの育成を目指した授業計画が必要です。世界統一テストにおいて、Group 1やGroup 3では、与えられた問いに対して1時間以上の筆記を求められます。Group 4では与えられる公式がシラバス改定で少なくなり、より深

い理解力と応用力が求められます。全ての科目を通して読解力、思考力、記述力、応用力が求められるため、生徒には、確実な知識の定着を前提とした授業への主体的な取り組みが求められます。座学のみでは対応できないため、各教科の指導の手引きに基づき、「指導のアプローチ (ATT) 」と「学習のアプローチ (ATL) 」を意識した授業計画が必要になります。

#### 5-4-4. DP 科目の開始時期

日本のデュアルランゲージプログラムでは、日本の高校卒業資格を取るために、必履修科目の条件を満たさなければなりません。

「標準としては、1 単位時間を 50 分とし、35 単位時間行われた授業を 1 単位と計算することとしている。(中略) 1 単位時間を 50 分とし、35 単位時間の授業を 1 単位とすることを計算の基礎とし、それを標準として計算された単位数に見合う学習時間量を確保することを前提として、実際の時間割編成に当たっては、授業の 1 単位時間を弾力的に運用できることとしている」(高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編 p.67 平成 30 年 7 月)とあるように、1 単位時間の弾力的運用で 1 年生 1 月からプレ IB に取り組んでいる学校もあります。これは各学校で検討の上、県教育委員会等との相談が必要です。

#### 引用・参考文献

- <https://www.ibo.org/en/programmes/diploma-programme/> (2024. 12. 2. 15:00)
- 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例の一部を改正する告示について(通知) (3 文科初第 1766 号 令和 3 年 12 月 28 日)
- 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編 p.67 平成 30 年 7 月

## 第6章 認定後に必要なこと

### 6-1. 認定後の定期評価訪問

IB ワールドスクールとして認定された学校は、プログラムを開始します。これは大きな目標達成を意味し、学校コミュニティの全てのメンバーがこの目標を達成するために貢献したことは賞賛に値します。

認定後まもなく、IB ワールドスクールチームの IB ワールドスクールマネージャーが学校に連絡し、これ以降、このマネージャーが学校との主な連絡窓口となります。IB ワールドスクールマネージャーは、プログラムを開始する学校にサポートとガイダンスを提供し、学校と協力して、プログラムの実践を継続的に改善していくためのさらなる開発領域の特定に取り組みます。確認訪問チームが特定した開発の機会は、学校が IB 校として発展していくうえで有意義な出発点となります。

プログラム開発の計画策定は、学校が IB ワールドスクールとして認定された直後から始まり、当該プログラムを実施し続ける限り継続します。この計画策定は、様々な形式をとることができ、各学校の状況や戦略的目標が反映されます。新しいプログラム開発計画は、優先事項や戦略的目標が変化すると学校が判断した時点で作成されます。

IB ワールドスクールマネージャーは、認定後5年ごとに行われるプログラム評価への準備を進めるうえで必要となる情報も提供します。プログラム評価は、学校における IB のプログラム開発が、明確な意図をもち、かつ焦点を絞った取り組みになるようサポートするものです。プログラム評価では、自校におけるプログラムの実施状況を振り返って評価するとともに、プログラムの1つの側面に関する計画策定、実施、分析、振り返り、学習のエビデンスを提供することが求められます。

IB 認定校となった後も、学校は定期的に IBO の確認を受けなければなりません。5年に1度実施される定期評価訪問がそれに当たります。なお、学校側は定期評価訪問に係る費用を負担する必要があります（詳しい費用は IBO へお問い合わせください）。

**認定訪問**：認定校申請に向けた最終段階で行われる、IBO による訪問のこと。

**評価訪問 (Evaluation Visit)**：認定校となった後に行われる訪問のこと。5年に1度行われる。全ての学校が訪問を受けるわけではないが、訪問を受けない場合でも内部評価を提出する必要があり、IBO からその検討結果を受け取ります。

**確認訪問**：認定校申請に向けた最終段階で行われる、IBO による訪問のこと。訪問を受けない場合でも内部評価を提出しなければなりません。

IB 認定校は、IB の使命として「国際的な視野」をより明確な言葉で定義づける試みと実践を通じてその理想に近づこうとする努力を続け、チャレンジに満ちた IB プログラムによる生徒の育成を遂行していくことが求められます。

## 6-2. 学校の宣伝について

IBO による一連の手続きを経て、候補校として認められると、候補校と名乗ることができるようになります。学校や導入する IB プログラムによって異なりますが、IB 認定までには通常 2～3 年の時間を要します。IB ワールドスクールとして認められれば、学校のホームページやパンフレットにロゴを掲げて、IB 校として生徒募集することができます。

公立校の場合、広報などを通じて地域の方々に IB 導入の情報を共有します。

## 第7章 情報収集の仕方

プログラムを実施する上で情報収集は欠かせません。認定校・候補校の数は増えてきていますが依然として数は少なく、例えば運営上の相談や教科実践例というガイドにのっている情報以上のことなどプログラムの発展には欠かせないものがあります。より具体的な事例についての情報収集は下記のリンクを始めとし、コーディネーターや教員、あるいは学校単位で外部との情報交換を積極的に行う必要があります。是非学校の置かれた状況を踏まえて情報共有の場を拡充するようにしてください。以下は参考までに記載します。

IB 情報の共有における一例	
文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム	<a href="https://ibconsortium.mext.go.jp/">https://ibconsortium.mext.go.jp/</a>
日本における IB 教育に係る様々な情報を発信しているポータルサイトです。	
IBO の問い合わせ先	<a href="mailto:support@ibo.org">support@ibo.org</a>
問い合わせ希望の際は上記アドレスまで。	
IBO ホームページ	<a href="https://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/">https://www.ibo.org/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/</a>
IB に関する日本語資料を掲載している IBO 公式ホームページです。	
IB Association of Japan (IBAJ)	<a href="https://ibaj.or.jp/ja/about/">https://ibaj.or.jp/ja/about/</a>
日本国際バカロレア校連盟のサイトで、日本の IB 校のネットワークです。	

【筆者】

石田 真理子	仙台育英学園高等学校
富岡 真理子	滋賀県立虎姫高等学校
樋口 俊通	岡山理科大学附属高等学校
松崎 秀彰	茗溪学園中学校・高等学校